

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	凜栗東		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24 (回答者数)	17
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3 (回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	重心児と知的児と一緒に過ごし、野洲養護学校、草津養護学校だけでなく、地域の学校の児童も利用している。普段あまりかかわることのないタイプの友だちとここでかかわりを増やし、お互いのできる、できないを共有し、お互いに支え合って協力して活動をしている。	休日は職員不足の日は外出があまりできないので、2ヶ月に1回、外部からアロママッサージの先生をお呼びして、重心児も知的児も楽しめる活動を取り入れている。	音楽療法など感覚的な活動も取り入れ、みんなが一緒に楽しめる活動をもっと増やしていきたい。
2			
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会や地域との関わりが少ない。	・父母の会は、会社でサロンを開いて保護者様との交流の場を設けているが、日程の問題もあるのか集まりが悪い。 ・地域との関わりでは、栗東市の福祉事業所が集まって「栗東市レクリエーションスポーツ大会」が行われるので、その実行委員会に加入し、地域参加をしている。	・平日の午前中ではなく、保護者様の休日の祝日や土曜日にしたり日程の調整も工夫していく。 ・長時間のスケジュールの大会になるので、重心児のケアが大会内では難しい。職員数が増えるとグループに分かれてスポット出場もできるので出場できるように工夫する。
2	遠出の外出活動が少ない。	重心児の食事介助にかかる時間が長い児もいるので、知的児と同じペースではお出かけが難しい。グループを分けた時もあったが、そうすると知的児と一緒に行動したい重心児もいるのでなかなか同じようには動けないのが現状としてある。	遠出だけを目的とするのではなく、近場から重心児と知的児と一緒に行動出来るお出かけから徐々に増やしていきたい。利用児によっては遠出もいける場合があるので、その時は安全に気を付けながら外出出来るように工夫する。
3			